

(別記様式)

平成31（令和元）年度 京都府立須知高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	本年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 目指す教育 日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校」以来の歴史と伝統を受け継ぎ、「自主」「規律」「誠実」を校訓とし、心身ともに健康で、自主の精神に富み、根気よく学ぶ力と豊かな情操を身に付けた有為な社会の形成者を育成する。</p> <p>2 目指す学校 (1) 地域と共に歩む学校、地域を支える人材を育成する学校 (2) 「土から食卓までを結ぶ」新たな専門教育を開く学校</p> <p>3 目指す生徒 (1) 夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、未来を見通し拓く生徒 【展望する力】 (2) 豊かな感性、人権意識、道徳心を身につけ、社会を担う責任を自覚し、自然、人、社会とつながる生徒 【つながる力】 (3) 自らの目標を実現するため、失敗を恐れずに挑戦し、強くしなやかな意志と健康でたくましく生きる生徒 【挑戦する力】</p>	<p>1 成果 (1) 生徒の生活実態に応じた組織的な指導の推進、府教委指定地域創生推進校「リスタ須知・夢 無限大 ∞」を軸とするきめ細かな学習指導、生徒指導、進路指導により、個々の生徒に応じた学力向上、希望進路実現を図れた。 (2) 「ハイスクール起業チャレンジ実践校」として京丹波学や地域探究ゼミ、京都府農牧学校の研究を通して地域活性化策を考案するとともに、食品科学科におけるの地元食材を活かした加工品開発やウィードの森に関する研究、普通科における地域資源を活用したプロジェクト学習の発表会を実施することで広く情報発信することができた。また、日本菊花全国大会における上位入賞やビジネスプラングランプリでの入賞などの成果を残すことができた。 (3) ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を行うことができた。また、ホッケー部男女揃っての全国高校選抜大会出場や同大会における女子ホッケー部のベスト8進出、少年女子京都府選抜チーム（本校生徒3名出場）国体優勝などの成果をあげることができた。 (4) 須高感謝祭を京丹波町食の祭典と同時に開催し、学習の成果を多くの方に披露することができた。「須高通信」の発行、HPの更新、京丹波町CATV・新聞等による情報発信により、本校の教育活動を広報してきた。また、学校アンケート、授業アンケートを実施し、教育ニーズの受信にも努めた。 さらに、中学校に加え小学校との連携を深めることができた。</p> <p>2 課題 (1) 家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦すること。 (2) 地域との連携や保護者からの信頼関係を深め、地域とともに歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。 (3) 規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進めること。 (4) 部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討すること。 (5) 地元中学生の本校に志願者を増やすとともに、全国から志願者を募集すること。</p>	<p>1 学校経営主題 「リスタ須知・夢 無限大 ∞ ～フロンティアスピリット by J. A. Weed～」</p> <p>2 学校経営の重点事項 (1) 「リスタ須知・夢 無限大 ∞」を学校テーマに、地域創生のモデル校を目指し、学力の向上と希望進路の実現を図る。 ①学科・コースの設置趣旨や目標を達成するため、個々の生徒の実態に応じたきめ細やかな学習指導と進路指導により希望進路の実現を図る。 ②地域を支える人材育成の観点から、京丹波町産業ネットワークをはじめとする地元企業や大学等と連携したキャリア教育を推進する。 ③知識を活用する資質・能力を育むとともに、主体的・対話的・深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ④学力の基盤である「言語能力」の育成を図るとともに、「須高英検」などの継続的な実施と資格取得を奨励する。 (2) 「ハイスクール起業チャレンジ実践校」の成果を踏まえ、地域資源を活用し、食と農に係わる活動をより推進する。 ①地域資源を研究する京丹波学や地域探究ゼミ、京都府農牧学校の調査に取り組み、その成果を発表し、広く情報発信する。 ②『土から食卓までを結ぶ』をテーマに、農業の6次産業化を推進するとともに、商品開発を進める。 ③農業クラブにおける「プロジェクト学習、課題研究」を計画的に実践し、プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技において日本学校農業クラブ全国大会入賞を目指した指導を行う。 ④調理師養成に関する新学科（仮称食物調理科）設置に向けた取組を推進する。 (3) 生徒指導と部活動等の充実により学校の特色化を図る。 ①ルールやマナーを守り、規範意識のある生徒を育成する。 ②ホッケー部員を全国から募集し全国大会優勝を目指すとともに、学校の特色化を推進する。 ③部活動をはじめとする諸活動の活性化を図るため、生徒のニーズに応じた活動と自主性を育む取組を行う。 ④茶道や和知太鼓など伝統文化に係わる教育活動の継承発展を図る。 (4) 地域とともに歩み、信頼される学校づくりを推進する。 ①「須高感謝祭」を「京丹波町食の祭典」と同時開催し、須知高校全体の学習成果を発表する場とするとともに、京都府農牧学校資料館、ウィードの森を活用し、学校を地域に公開する。 ②環境食育校種間連携パートナーズスクール事業、地元小中学校等との連携活動など校種間連携を積極的に推進するとともに情報発信する。 ③新聞広報、HP、京丹波町CATVなどによる教育活動情報を積極的に発信するとともに、教育ニーズの把握に努め定員を充足する志願者を確保する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
1 教務部	学習意欲の向上と学習習慣の定着の取組	・学習意欲の向上を図る取組を推進する。	B	B	<p>須高学力向上推進週間の啓発や、教科による補充学習の取組も充実した。家庭学習の習慣については、まだまだ課題のある生徒も一定数いる。</p> <p>学力や生活習慣に課題のある生徒についての取組をすすめてはきたが、すべての生徒に効果的であったとはいえ、進路変更した生徒もあった。授業規律の確保について課題のある生徒もある。遅刻欠席点検週間の取組は、全体的には効果があるが特定の生徒に課題が残る部分もある。</p> <p>本校の生徒の学習に関する課題や教育活動の特徴を活かした、新学習指導要領による教育課程の編成する。</p> <p>開始3分前チャイムを導入し、考査の開始をスムーズに進めるなどの工夫ができた。</p> <p>3学期より日々入力を試行することができた。今後は、校務システムの一層の活用が進められるよう研修を工夫していく。</p> <p>様々な機器が導入される中で、活用方法の工夫事例の共有化についても進めていく。</p> <p>全国高等学校PTA連合大会京都大会の担当分科会の成功をはじめ須高感謝祭での積極的な取組などを活発に取り組むことができた。</p> <p>須高通信の発行について、生徒の写真の活用について、本人の了承が年々取りにくくなる傾向があり、発行回数に限られてしまう困難さがある。それ以外の広報物については、町内及び管内中学校を中心に積極的に届けることができた。</p> <p>今年度、学校行事と本校の説明会の日程が重なった学校についても、学校に向いて説明会を実施することができた。効果的な生徒募集活動については、これからも戦力的に検討を進める必要がある。</p> <p>授業に合わせて調べ方案内等の資料を用意することは出来なかった。広報活動は、『LIBRARY NEWS』の他、生徒昇降口前のコーナーを活用して行った。書庫内の未入力資料のデータ化を引き続き行った。</p>
		・学習習慣の定着を図る。	B		
	中途退学・原級留置の解消に向けた取組	・中途退学・原級留置の防止に向け、教科・担任・関係分掌と連携を図る。	C	C	
		・授業を大切に作る姿勢を徹底する。	C		
		・欠課・遅刻を防止させる取組について、効果的な方法を模索する。	B		
	教科主任会議を軸に教育内容等の検討	・教育課程を検討、充実させる。 ・基礎学力の定着に向けた取組を検討する。	B	B	
	定期考査等の円滑な運営	・教科担当者、担任と連携し円滑に運営する。	B	B	
	校務システムの活用	・校務システムによる教務関係の手続き（成績処理など）の安定した運用と活用を図る。	A	A	
		・諸帳簿作成機能の活用を推進する。	A		
	I C Tを活用した教育の推進	・I C T機器を活用した教育の情報化を推進する。	B	B	
	P T A活動の推進	・学校と家庭との連携を図り、P T A活動を充実し、行事への積極的な参加を呼びかける。 ・全国大会の円滑な運営に向けて、事務局業務を推進する。	A	A	
	学校広報活動の推進	・「須高通信」の紙面充実に心がけ、見やすいH Pを作成する。 ・地元ケーブルテレビを活用する。	B	B	
生徒募集活動の推進	・学校広報会議を軸に組織的な生徒募集活動を一層推進する。	B	B		
	・地元中学校との連携した取組を推進する。	B			
	・各種説明会の一層の工夫を図る。	B			
学習活動を支援する図書館活動	・学習活動に関わる資料を探しやすくするための資料案内を充実させる。	C	B		
	・利用者の興味・関心を深め図書館資料へ導く広報活動を行う。	B			
	・データ整備と検索環境の整備を進める。	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題			
2 生徒指導部	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規律ある生活の確立 ・ 公共心の醸成 	B	B	<p>昨年同様、遅刻者数の減少が見られた。2月になり携帯電話の不正使用が明るみになったクラスがあったが、不正を認めそれ以後の授業を真剣に受けられるようになった。また、授業中に居眠りする生徒が数名いたが、教務部と連携し指導に取り組んだ結果、一定の効果はあったが、学力に課題のある生徒に多く見られる傾向があり、教科など多方面からの指導が必要である。</p> <p>SNS上での中傷誹謗事象については、校内で喫煙の形跡があったため、全教職員で巡回指導を行った。特殊詐欺などの犯罪に巻き込まれないよう指導も行う必要がある。校内での盗難や交通事故等は起こっていない。一方、暴力事象は、大きな事象はなかったが、定期的に注意喚起する必要がある。</p> <p>生徒会を中心として、学校祭等に積極的に取り組めた。また、本年度から京都府自転車安全利用推進員に取り組み、自転車の正しい乗車等の呼びかけに取り組んだ。部活動は、兼部の生徒が増えた。</p> <p>特別指導件数が少なかった。学年（担任）が家庭としっかり連携し指導に当たった。</p>			
	安全・安心な環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ・暴力を許さない。 ・ 盗難・喫煙の防止 ・ 交通関係の事故や違反の防止 	B C A					
	自主活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校祭、委員会活動、各種ボランティアの充実 ・ 部活動の活性化 	A B					
	家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTAとの連携 ・ 問題行動のある家庭との連携 	B B					
3 進路指導部	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年の進路目標を設定し、個々の生徒のニーズに応じた進路学習を推進する。 ・ ガイダンスや進路面談等を通して生徒と向き合う密着型指導を行い、進路意識を喚起して自分で進路を切り拓く指導を行う。 ・ FINEシステムを活用して学力分析を行い、教科指導・進路指導に効果的なデータを提供するとともに生徒の学力向上に向けた戦略を練る。 ・ 4年制大学志望者が増加している現状を踏まえ、三人指導体制など組織的指導体制を早期に構築する。 	A B B A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夢実現プログラム」に各学年の進路目標を設定し、それに沿った内容を展開することができた。 ・ 3年生進学希望者には、3人指導体制が功を奏し推薦入試段階から密着型アプローチの結果を出すことができた。ただ、授業担当でない教員が担当の場合には少し課題が残った。 ・ 学力向上のために教科連携を図り、模擬試験の結果データを共有できた。しかし、FINEシステムの活用については一部の教員に限られた。 ・ 3年生の進学結果について、早期からの指導が実を結び、年内に合格を勝ち得た生徒が多かった。 ・ 国立大学については、昨年同様複数名が合格できた。 			
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業理解や学問研究ガイダンスを充実させ、個々の生徒のキャリア設計を考える機会を増やす。 ・ 京丹波町と連携し、キャリアアップ講座やインターンシップなどを充実、発展させ地元へ貢献できる人物を育成する。 ・ 社会人外部講師を活用し、志望理由書の書き方やビジネスマナー、職業理解への心構えなどを指導する。 	A A A			A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生就職希望者に対しては、年度初めからの指導を効果的に行い、一次内定者の内定率向上に役立った。年内内定率100%を達成した。 ・ 京丹波町に立地する企業に内定した生徒が50%と昨年よりも増加した。前年度のインターンシップ等の指導により、就業意識の向上や京丹波町への魅力理解が進んだ。 ・ 外部講師活用により進路意識の喚起に役立った。 	
	大学入試改革の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ Japan e-portfolioの機能を学び、主体性評価を研究する。 ・ 国語科、数学科、英語科と連携し、「大学入試共通テスト」「英語4技能」の在り方を研究する。 	C B			B		<ul style="list-style-type: none"> ・ ポートフォリオに対する研究が進まなかった。 ・ 夏以降、「共通テスト」対応（生徒・保護者・校内教員に向けて）は怠りなかったが、教科との連携に少し課題が残った。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
4 保健部	健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な取組に加え、「基本的な生活習慣と健康」、「性教育」や「がん教育」等の講演を実施し、生徒の健康意識の向上を図る。 ・多様な生徒の実態を把握し、適切な指導を行うことで、自らの健康維持・増進を図る。 	A			<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に性教育、1年生は防煙教室、3年生はがん教育を実施した。健康診断の結果を適切なタイミングで返却し、生徒自らの健康状態について考える機会とすることができた。さらに、保健便りを通して、健康相談、熱中症の予防、ストレスチェック、インフルエンザ等の感染予防に対する啓発をした。 ・運動部員に対して熱中症予防の保健指導を行った。 ・保健厚生委員会で、エイズ予防に対する啓発活動を実施し、生徒の健康意識の向上を図った。 ・今年度も健康診断で授業時間を確保するため、身体計測・血液検査・X線撮影を同時に実施するなど成果はあったが、同時開催できる検診とできない検診があるため、ご理解いただきたい。
	安全な学校環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・厚生委員会による安全・美化点検等の実施 ・日常の清掃活動等において積極的に取り組むように指導する。 ・ゴミ分別の意識を高め、正しく分別するように指導する。 	B		A	<ul style="list-style-type: none"> ・空気検査・照度検査・水質検査・ダニ検査・学校安全点検を実施し、安全な学校環境を整備することができた。 ・保健厚生委員会により、毎週月木実施のゴミ捨て日にゴミ分別の取組ができた。 ・掃除補充を実施し、掃除への意識を高めることができた。 ・ペットボトルキャップの回収を通して、ゴミ分別の意識を高めることができた。 ・掃除監督の教員数に対して掃除場所が多いため、掃除場所・掃除の仕方、監督配置を見直す必要がある。
	関係分掌と連携し教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な生徒に対して、その生徒に応じた支援を担当、支援員、保護者及び関係機関と連携しながら実施する。 ・スクールカウンセラーを活用し、教育相談の充実を図る。 ・学校欠席者情報システム（サーベイランス）に入力し、関係分掌と連携を図る。 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談会議をふまえ、対象生徒に対する支援の必要性を明確にした。また、スクールカウンセラーを活用し、継続して生徒の相談が実施できた。 ・特別支援の必要な生徒が、授業の取組に対し、スムーズになるように、担任、支援員、人権部と共に情報共有しつつサポートした。 ・毎日のサーベイランス入力を行い、地域・学校の感染症予防に努めることができた。 ・教育相談をしやすい体制づくりを次年度以降にどのようにすべきか、継続してスクールカウンセラーとともに協議することができた。 ・サーベイランスの活用について、今年度の成果をふまえ、次年度に生かしていくための分析をする必要がある。
	教職員・生徒への研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解を深めるための研修会を実施する。 ・救急法実技講習会を実施し、AEDの使用による緊急事態の体制を整える。 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる教職員研修を実施、精神疾患についての正しい知識を身に付けることができた。 ・教職員・第1学年生徒全員に対して、AEDの講習会を実施することができた。 ・各種研修の参加人数をもっと確保したい。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
5 人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ごとに人権学習を実施する。基本的人権に対する正しい理解をさせ、学校生活の中で人権を意識し、お互いに思いやりのある行動が出来るように指導する。 生徒会人権委員会の活動を充実する。 	C	C	B	<p>各学年に2回の人権学習を実施した。人権学習を通してお互いの人権尊重の思いを持つことができるように指導した。視聴覚教材を用いる等、各学年で適した内容で実施した。</p> <p>3年生の人権学習において、人権委員が模擬面接等を実施し、共に学びあう雰囲気をつくることのできた。</p>
	就修学の保障と希望する進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力保障の取組を進め、原留・中退がないように相談にのり、働きかける。 経済的に困難がある生徒に対して援護制度を紹介し、その活用を促す。 	B	B		<p>課題のある生徒や支援が必要な生徒に対して、各教科の協力を得て、個別対応や補習等を行うことで、生徒の学力保障を図った。</p> <p>援護制度の内容について、保護者に対し、就・修学及び進学・就職に関して説明をした。</p>
	課題のある生徒に対する指導と支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議を定期的で開催し、対応すべき生徒を早期に把握し、各分掌と連携して適切な指導支援を行う。 	B	B		<p>定期的に2ヶ月に1回の割合で、教育相談会議を担当及び保健部と協力し実施することができた。</p> <p>生徒の情報を共有することで、今後の方針等を検討することができた。</p>
6 農場部	農業クラブ活動をとおして、「科学性」「社会性」「指導性」を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 各種の発表会や競技会に向けた活動を組織的に推進し、全国大会入賞を目指す。 地域と連携した取組を推進する。 資格取得の充実を図る。 	B	A	B	<p>京都府学校農業クラブ連盟大会ではプロジェクト発表や意見発表に積極的にエントリーし、プロジェクト発表では優秀賞を獲得した。競技に出場しなかった生徒についても、今年度の府連大会にはほぼ全員の生徒が参加し、他校の研究発表を見学したり、運営面の視察をすることができた。また資格試験や各種講習会にも積極的に参加し京都府教育長表彰を3年生17名中12名が受賞した。</p>
	「食品科学科」の魅力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 農業の6次産業化を目指した取り組みを推進する。 産官学との連携により京都丹波の特産食材を活かした加工品シリーズの開発を目指す。 ハイウェイラ「京丹波味夢の里」へ参画した取組を推進する。 新たな販路の開拓をする。 	A	B		<p>農業クラブ活動や中国の小学生との交流や「味夢の里」でのクッキー製造実演、わち山野草の森のイベント参加や福祉施設との交流を通して、生徒たちの学習意欲や進路実現に向けた意欲が高まってきている。今後も継続発展させていきたい。農業の6次産業化を目指した取り組みでは、学校で生産した農産物を活用して開発した新商品を須高感謝祭で販売することができた。今後も新たな商品の開発に取り組んでいく予定である。</p>
	「食品科学科」の特色を活かした取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 「京丹波●食の祭典」と共同開催している須高感謝祭を学習成果の発表の場として一層充実させる。 「学校林を活用した森林環境教育」の取組を推進する。 校種間連携を一層推進する。 地域に向けた販売実習を計画的に取り組む。 	A	B		<p>学校を活用した「環境・食育校種間連携パートナーズスクール事業では、関係機関と連携しながら実施することができた。課題研究発表会では幼小中の教員も参加し1年間の成果を発表し高い評価を受けることができた。好天に恵まれ須高感謝祭を2年ぶりに京丹波町の食の祭典と同時開催することができた。学校のPRになるとともに生徒にとってよい学びの場となり「食品科学科」の特色を活かした取組を推進することができた。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
6 農場部	食品科学科の将来構想を検討する。	・「食と農に関する総合的な専門学科」の設置に向け検討する。	B	B	B 学科改編から25年が経過し、施設設備の老朽化が目立っているが、全ての更新は財政上厳しい現実がある。食品科学科が職業学科として目指す教育活動推進のため、将来構想を含め環境整備や施設設備の充実を今後も要望していく必要がある。 学年部、生徒指導部、進路指導部等と連携して生徒の指導を行うことができた。
	農場の環境整備や施設設備の充実を図る。	・基盤整備を検討する。	B	B	
		・環境整備を行い、地域に開かれた農場を目指す。	B		
		・施設・設備の老朽化に対応した更新計画を検討する。	B		
食品科学科として一貫した指導を行う。	・関係分掌と連携し、服装指導や生活指導を行う。	A	A		
7 第1学年部	学力の向上を図る。	・授業に集中する。	A	B	B 授業は、提出物等を含め全体的にしっかり受けることができた。3学期に、授業中のスマホ使用があった。学校生活への慣れ等で気持ちの緩みが出たことが原因かと思われる。 学習面・生活面ともに、具体的目標を持たせ、年間を通じて気を引き締める取組が必要である。
		・準備、後片付け、提出物等を確実にする。	A		
		・目標を立て、計画し、達成に向けて取り組む。	C		
	基本的生活習慣の定着を図る。	・ルールとマナーを守る。	A	A	
		・整理整頓をする（清掃活動をきちんとする）。	A		
		・爽やかな挨拶と元気の良い返事ができる。	B		
8 第2学年部	学校において中堅としての自覚を促し、有意義な学校生活を送る。	・基本的な生活習慣を身に付け、各個人が規律正しい学校生活を送る。	B	B	B ・服装、頭髪当の規律面において、若干の違反者が出たが、おおむね良好と言える。ただし、特別指導が2件発生したことは残念である。 ・例年とは異なった時期の研修旅行であったが、旅行社との連携を図り、生徒側の問題も皆無であったため、成功裏に終えることができた。 ・常日頃から学習の大切さを説いてきたが、まだまだ考えが甘い生徒がいることは否めない。 ・入試改革については、進路指導部と足並みをそろえ、保護者説明会の開催など、最新情報の提供などに従事できた。
		・安心して生活できる環境を整備し、お互いを大切に思いやる信頼関係を築く。	B		
		・最大の行事である研修旅行を成功させる。	A		
	学力向上と進路実現に向けての意識を高める。	・毎日の授業や家庭学習の大切さを意識させる。	B	B	
・進路について具体的な展望を持たせ、実現に向けての方策を講じる。特に、新しい入試のシステムに対応するため、情報収集や生徒への周知に努める。	A				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
9 第3学年部	希望進路を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習や自主学習の定着と継続を図る。 模試や資格取得に挑戦し自分の可能性を広げる。 学校の進路指導に真面目に取り組み準備を怠らない。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲が向上した生徒が増加した。反面消極的な生徒も多くみられた。 一部で模試や資格取得に前向きに取り組んだ。 進路指導には比較的きちんと取り組むことができている様子であった。
	社会人となるための基礎を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を定着させる。 学校行事や部活動などを通して、適切なコミュニケーション能力を身に付ける。 礼儀やマナーを重んじ、場に応じた態度を習得する。 	B			
10 学力向上・ SA推進部	学力を向上させるための指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣の確立に向け、学年部と連携しながら、学習時間の調査票などを活用する指導を行う。また、英語、数学、国語の各教科による、府立高校実力テストを教材とした学力向上の取組を行い、各教科での教科指導上の課題発見の機会とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の調査票などを活用する指導が十分でなかった。SAコースだけでなく、1、2年生全体で府立高実力テスト（国、数、英）を教材とした「チャレンジミート」を計画的に実施できた。
	SA（スーパーアドバンス）コースの充実	<ul style="list-style-type: none"> 週34時間授業やサタデースクール、進学に関わるイベント、模擬試験、ならびに大学院生との交流など、SAコース全員参加の行事を計画的に実施し、生徒の進路意識の高揚と学力向上につなげる。 SAコースを対象とする各教科の3年間の教科指導プランについて、教科担当者や担任教員で情報を共有し、教科指導上の課題などを必要に応じて確認し、全体で共通の認識を持つ。 	A	B		<ul style="list-style-type: none"> 進学イベントとして夢ナビライブやオータムセミナーに参加し、単に大学進学だけでなく、大学進学の意義やその後の職業について意識する良い機会となった。 SAコースを対象とする各教科の3年間の教科指導プランについては、模擬試験の結果を各担当者で見るとはしたが、その共有は十分ではなかった。
	サタデースクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生は、原則月2回程度実施する。各教科と連携し、1日につき2科目の講座を開講することにより、大学入試等を突破できる学力の土台をつくる。 3年生については、進学希望者対象の講座とする。各教科による1回完結の講座を14講座開講し、生徒の主体的な取組を支援する形態で実施する。 	A	A		<ul style="list-style-type: none"> サタデースクールは台風の接近で休校になった以外は予定通り実施できた。 1、2年生では、学力の向上だけでなく、大学進学に向け意識を高める効果もあった。 3年生は、ニーズに合った講座をある程度展開できた。模擬試験が入ることが多く、回数はあまり多くなかったものの、平日の進学講習で補えた。
	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> SAコースの担任を中心に、学年部および農場部、進路指導部と連携して、大学進学希望生徒の進路希望実現に向けた、情報交換や生徒面談を行う。 	B	B		<ul style="list-style-type: none"> 学力向上・SA推進部だけでなく、進路指導部全体で、関係分掌と連携して、進路指導ができた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
11 事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各分掌・教科や各種事業担当等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学校運営費が15%減となり、例年以上に予算状況が厳しい中、各分掌・教科と連携し、適切な予算執行に努めたが、老朽化した施設設備の維持修繕や、学力向上推進のための環境整備等、限られた予算をより効率的に執行していくことが今後の課題である。 ・体育館等のワックスがけやドラフトチャンバーの更新、農業畜産科実習棟への冷蔵庫設置等、生徒の学習環境の整備に努めた。 ・玄関モニターの画面構成等を工夫し、見る人に学校の魅力が伝わるようタイムリーな情報発信に努めた。 ・今年度、日本学生支援機構の奨学金については、マイナンバーの提出等、新しく変わる内容が多くあったが、保護者向けの説明会において、映像資料を活用する等、わかりやすい申請手続きの説明に努めた。 ・日常的な危険箇所の早期発見と、学校安全点検の結果を踏まえた修繕と環境整備に努め、清潔で安全な教育環境の維持管理に努めた。
		・学力充実・向上のための予算の重点的な措置	C		
		・スピードとタイミングを重視した予算執行	B		
	学校理解を深める広報活動	・玄関モニターによる外来者向けに情報発信	B	B	
		・就・修学支援事業に係る確実な情報提供	B		
		・説明会等において、保護者向けに情報発信	B		
	安心・安全な学校環境の整備	・常に課題意識や危険意識をもった施設設備の維持管理	B	B	
		・危険箇所の早期発見、対処	B		
		・清潔な学校環境を保つ清掃管理	B		
12 国語科	「リスタディ」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	・日常的な小テストを中心に基礎的な国語常識の定着を図り、言語表現を豊かにさせる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストや古語テストなどの小テストをはじめとし、音読や暗記の課題に取り組みせることで、国語常識的な言語表現を身に付けさせた。これらの課題を、的確な頻度で、また提出させるための指導も行った。 ・SAコースの授業では、入試に対応できるように、生徒の実態にあわせて教材を選定し、演習等を行った。また、国語表現では、生徒の進路希望実現に直結する学習内容を考え、進路指導部と連携したり、グループワークを取り入れたりするなどして、必要な時期に取り組むことができた。 ・言語活動の中で、「書くこと」、「話すこと」には授業中に取り組みせることができたが、「聞くこと」における活動は、まだ試験的な取り組みしかできておらず、今後の課題である。 ・長期休業を利用して論文コンクールへの応募に挑戦させ、入賞する作品もあった。 ・個人添削や進学講習、サタデースクールにおいては、希望進路に合わせてきめ細かく対応できた。 ・同一科目を複数で担当することによって、教材研究に関わる情報交換や、授業の進度の相談の機会が増えた。 ・教科会議を週1回程度行い、授業実践について情報を交換することで、各科目での新しい試みや教材作りなどに取り組めた。
		・的確な頻度で課題に取り組みさせ、家庭学習習慣の定着を図る。	B		
		・SAクラスの授業を中心に、各コースとも進路実現に必要な学力を定着させ、卒業後も活用できる問題解決能力を伸長させる。	A		
	生徒の進路実現に向けた「ことばの力」の伸長	・授業内で「書くこと」「話すこと」の言語活動を充実させ、基本的な「ことばの力」を伸長させる。1年3組と2年3組の生徒を対象に、授業内で実施する漢字検定に向けた取り組みを行い、「ことばの力」の伸長を図る。	A	A	
		・各種論文コンクールへの応募にあたり、きめ細かな指導を行う。	A		
		・個人添削や進学講習、サタデースクールを充実させ、各生徒の希望進路に応じた「ことばの力」を伸長させる。	A		
	教員の授業力向上	・生徒の基礎学力を保障する授業実践に向けて教材研究を進め、きめ細やかな指導を目指す。	A	A	
		・研究授業や教科研修、定期的な教科会議などとおして、授業実践について日常的に情報交換を行う。	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
13 地歴・公民科	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの復習や、小テスト等の実施により、基礎知識を身に付けさせる。 ・ 毎時間の狙い、到達目標を明示し、学習意欲を向上させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元毎の復習・小テスト・板書の工夫等により、基礎知識の定着を図ることができた。 ・ 授業の始めに授業のねらいを説明し、興味・関心を高める工夫を行うことができた。 ・ 生徒が能動的に学習することができるように工夫をしていきたい。
	進路実現に向けた学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学補講や進路希望に応じた個別指導などの実施により、進路実現に向けた学力を身に付けさせる。 ・ 定期考査の内容を精選し、基礎学力の確認とともに、入試等に対応した問題を作成する。 	A	A	
	社会で活躍できる資質を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目において、現代社会との接点を重視し、生活と密着した授業を展開する。 ・ 調べ学習等で、生徒が主体的に取り組む力を養う。 ・ ICTや新聞を活用した授業をおこなう。 	A	B	
14 数学科	より高い進学志望に応える学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学希望者に対する指導、進学講習、サタデースクールを充実させる。 ・ 大学入試改革、大学入学共通テストに関するセミナー等に積極的に参加、情報収集、共有を行い、指導改善に活かす。 ・ 模擬試験受験者の偏差値を年間を通して向上させる。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学講習での大学入試対策、サタデースクールでの模試対策および授業の深化が実践できた。 ・ 大学入試改革に関する研修会、セミナーに参加し授業改善に活かした。一方で、情報収集に関しては十分とは言えない面があり、今後も継続する必要がある。 ・ 7月と1月の進研模試を比較すると、1年生：-1.1pt(SA：+2.6pt)、2年生：-0.9pt(SA：+0.5pt)であった。SAコースのみを抽出すると向上しているが、SA以外の伸びにばらつきがあるため、指導徹底の範囲を広げる必要がある。
	卒業や進路保障を実現する学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて義務教育段階の学習内容も復習し、授業に向かう姿勢を身に付けさせる。 ・ 課題にきちんと取り組み提出する姿勢を身に付けさせる。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査に向けて学習する習慣をつけさせるとともに、学習が不十分な場合は、再テストを活用し学び直しをさせる。 	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
14 数学科	生徒の学ぶ意欲を高める学習指導	・家庭学習習慣を身に付けさせるために問題集やプリントを活用する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返るプリント教材の作成、配布は、年間を通じて実践できた。一方で、家庭学習習慣の確立は、生活実態調査から十分とは言えず、今後の課題とする。 ・動的教材など、ICT機器の活用は必要に応じて活用できた。一方で、スタディサプリを取り組ませる体制が整っておらず、活用を踏まえた指導計画が必要である。 ・須高数検など、「数学検定」の関心を高める展開ができた。2月下旬現在、受験希望者が前年度を上回る状況である。継続して、「数学検定」の取り扱い含めた検討を重ねる必要がある。
		・ICT機器やスタディサプリを積極的に活用する。	B			
		・検定への意欲を向上させるための取組を実践し、「数学検定」の受験者数を増加させる。	A			
15 理科	科学的な考え方を身に付けさせる	・実験や観察、実習を積極的に取り入れる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・物理基礎を中心に、授業内で基礎的な実験を多く取り入れることができた。実験器具の老朽化などに課題があり、必要物品との入れ替えが急務である。 ・パワーポイントやDVD教材を中心としたICT機器を用いた授業を実践することができた。
		・興味・関心を引く教材・指導方法の工夫する。	B			
	基礎学力の定着と進路実現に向けた学力の向上	・基礎補習や課題等により、基礎学力の定着を図る。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振生徒に対する、補充課題や放課後補習により、生徒の学力の向上に努めた。生徒の受験科目の変化に伴い、柔軟な授業展開と受験指導を行った。
		・進学補講や進路希望に応じた個別指導などにより、進路実現につながる学力の充実を図る。	B			
16 保健体育科	健康の増進と体力と精神力の向上	・「体力を高める運動」を通して体力と精神力を向上させる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業始めに補強運動や体づくり運動などを取り入れて実施することができた。 ・新体力テストの結果を返却し、自らの健康や体力について考える機会を持つことができた。 ・持久走では、上位ランキングを掲示することで意欲的に頑張る生徒が増えた。一方、消極的な生徒をいかにやる気にさせるかが今後の課題である。 ・生涯スポーツを目指し、自ら計画した内容を授業で実施することができた。
		・自らの健康に関心をもち、生涯を通じて意欲的に運動に親しめるよう、選択授業を通じて自らが計画を立てて行う。	A			
	社会性や協働性を身に付けさせる。	・毎時間、積極的に爽やかな挨拶と返事を心掛け、規律ある授業（学校生活）を送らせる。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初より集団行動を実施することで、きまりを守って行動することが概ねできた。 ・周囲と協力しながら、準備、片付け、審判などの役割を分担しながら活動することができた。
		・安全への配慮、公正、責任等の態度を育成する。	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
17 芸術科	自己肯定感を高めさせ、実技能力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品発表や演奏発表をとおして、自分の個性も他者の個性も認め合うことで自己肯定感を高めさせる。 ----- ・毎時又は単元ごとに授業の振り返りを行い、生徒に自己の課題に気付かせ、向上心をもたせる。 ----- ・根気強く物事に取り組み、実技能力の向上につなげる。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・作品発表や演奏発表をとおして「相手に届ける」という意識を持たせた上で互いの良さを伝え合わせることにより、共感的理解が深まり、自己肯定感を高めさせることができた。 ・毎時又は単元ごとに振り返りを実施し、生徒自ら自分自身の課題を整理させ成長に気づかせたことにより、芸術の実技能力を向上させることができた。 ・自己肯定感を高めさせ、成長を実感させたことにより、更に良いものにしたいという気持ちが芽生え、練習に集中して取り組ませることができた。チャイムが鳴っても練習に没頭する様子も見受けられ、実技能力を一層向上させることができた。
	芸術のあり方や生活とのかかわりに関心をもたせるとともに、生涯にわたり伝統文化などの芸術文化に親しむ態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来につながる芸術の可能性を示すことにより授業に対する目的意識をもたせ、親しみやすく、興味・関心が一層深まる教材の工夫に努める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術を活かすことができる具体的な進路を提示し授業における目的意識をもたせ、教科会議や学校内外の研修などをとおして授業づくりの工夫を何度も検討し、試行錯誤することにより、興味・関心を一層高めさせる教材の工夫に努めることができた。
	適切な言葉で表現する力や的確に想いや考えを相手に伝える力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品発表や演奏発表の機会をつくり、自分の想いや目標をより適切な言葉で具体的に表現させる。 ----- ・自らの気持ちがよりよく伝わる言葉遣いや相手を思いやる気持ちを身に付けさせる。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時又は単元ごとに実施した振り返りのプリント及び発表時の授業プリント等をおして繰り返し指導にあたったことにより、適切な言葉遣いで相手に伝える力を身に付けさせることができた。 ・指導者も常に適切で的確な言葉を遣うよう努め、何度も言葉掛けを行ったことにより、少しずつ自らの気持ちがより良く伝わる言葉遣いを意識させることができた。
	生活習慣を見直す意識をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の技能を磨くことやよりよい作品をつくることは自分自身を磨くことであり、身体が資本であることを伝え、生活習慣を見直す意識をもたせる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏の技能を磨き、より良い作品を仕上げるためには体が資本であり、根気と集中力が必要であることを伝え、夜更かしなどの生活習慣を少しずつ改善していこうという意識を持たせることができた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
18 英語科	生徒の希望進路の実現に向けた学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 英語4技能の習熟に向け、生徒が授業において積極的に英語を使えるようペアワークやグループワーク、発表等のパフォーマンス課題を導入する。 サタデースクール、進学講習においてiPadなどのタブレット端末を効果的に活用する。その際、ベリタスアプリやスタディサプリを最大限に利用する。 大学入試改革に伴う共通テスト・外部検定試験の導入に向けて教科内で研修し、授業・進学講習・サタデースクール等で対策指導をする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> インプット（リーディング・リスニング）活動だけでなくアウトプット（ライティング・スピーキング）活動を継続的に取り入れることで、英語の4技能を総合的に高めることができた。 少人数講座の利点を最大限に活かし、ひとりひとりに目を配り、基礎力向上が見られた。 大学入学共通テストの英語外部試験の導入の一時凍結などがあったものの、授業やサタデースクール、進学講習などの場で英語4技能を高める指導をしたことは、結果的に生徒の総合的な英語力の向上につながった。 iPadやタブレット端末、ベリタスアプリ、スタディサプリの活用を十分にできた生徒もいた一方で、そうでない生徒もいたので、どのように全員に活用させるかが課題である。 来年度は積極的にスピーチコンテスト等のイベントへの参加を促し、英語力向上のきっかけにしたい。
	生徒の学ぶ意欲を高める学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 少人数講座の利点を生かし、生徒の基礎学力定着を図る。とりわけ「マナトレ」などの副教材を活用し、「わかる」授業を展開する。 京丹波町から助成をいただいている「英検」の受験者ならびに合格者を増加させる。 	A			
19 家庭科	主体的な「生活者」の視点から、必要な知識や技術を身に付けて、生活面で「自立」し、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい生活を「創造」していく力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材を取り上げ、生徒が授業と実生活を結びつけることができるようにする。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中にあるものや事象を題材として多く取り入れ、授業と生活が関連するよう工夫した。 地域の方、職人、専門家等との交流を図ったり、フィールドワークや体験活動を多く取り入れ、主体的・実践的により深く学べるよう工夫した。 新聞や音楽、デジタル教材、パワーポイント等を活用し、楽しくてわかりやすい授業づくりに努めた。 自立力の向上は、計画と評価を実行しながら推進していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業後の生活を具体的にイメージしながら、自立・共生を実践できる力を付けさせる。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> 実習や体験活動を多く取り入れ、関心や理解度、自己肯定感を高められる授業を展開する。 	A			
20 農業科	生徒の学習意欲の喚起につながる授業の展開により、専門的な知識と技術を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> より具体的で分かりやすい授業を展開する。 	A	A	A	資格取得への取り組みや各専攻の特色を活かした授業展開ができており、生徒の知識・技術の向上につながっている。今後は更に上級の資格への受験をさせる指導も充実させていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 社会人講師を計画的に招き、専門知識や技術を深化させる。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> 資格取得を一層推進する。 	A			
	生徒の進路意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導を徹底し4年制大学への進学率を高める。 	B	B	A	4年制大学への進学希望者は少なかったが、農業大学校や食品製造会社など、農業や食品関連への進路を希望する生徒が多かった。授業や実習、課題研究等での学びが進路決定に活かされるような指導に取り組んでいきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 担任との連携を強化し、生徒の進路実現を図る。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> 専門教育を通して生徒の進路意識を高める。 	A			
食品科学科の特色を生かした取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 京丹波町との連携事業を一層充実させる。 	A	A	A	環境・食育パートナーズスクール事業を行い、瑞穂中学校、京都大学との合同で和食について学習したり、研究発表会をした。また、農場や学校林を活用した地域の幼稚園や小学生との交流をすることができた。	
	<ul style="list-style-type: none"> 指定事業の取組により、生徒の主体的な活動を推進する。 	B				
	<ul style="list-style-type: none"> 他校種間連携を推進する。 	A				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
21 情報科	情報技術を生かす豊かな感性、道徳心を身に付け、社会を担う責任を自覚し、人、社会とをつなげるコミュニケーション力のある生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 情報はコミュニケーション技術であることを理解し、ビジネスマナーをはじめ、他人を思いやり自己を育む豊かな感性を育成する。また、情報を収集し、収集したデータから因果関係を導き出し問題解決に取り組める能力を育成する。進路部と連携し就職希望者・進学希望者を対象に進路に合った資格取得を指導し、生徒の希望に応じた補習を行うなど、生徒の進路実現に向けたサポートを行う。 	A	A	A	<p>ビジネスマナーの必要性を説明し、授業の開始・終業時のマナーの徹底に努めた。生徒も、意義を理解し取り組めた。特に、食品科学科の生徒には、「ビジネスマナー」の指導を行った。ビジネスコミュニケーション検定については、15名（合格率88.2%）が合格した。</p> <p>高度情報通信社会に参画するための態度とサイバー犯罪やコンピュータウイルスに感染しないための知識と自覚を促した。また、サイバー犯罪については、新聞記事などを紹介しながら、携帯電話等の使用にあたって注意を促した。</p> <p>日々の授業ノートを取らせるとともに、考查ごとに点検し評価に組み入れている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 高度情報通信社会に参画するため、個人情報保護、無形財産権の保護やネット犯罪に巻き込まれないための知識を学ぶことで、社会を担う責任と自覚を育成する。 	A			
		<ul style="list-style-type: none"> 授業に積極的に参加する態度を育て、ノート作成指導や実習課題の提出の徹底を図る。 	A			
	「土から食卓まで」農業の6次産業化を推進し、産官学連携授業を発展させる。	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携授業を積極的に推進し、協力企業や生徒間のコミュニケーション能力や情報受信能力を育成する。また、問題解決に向けた問題提起を地域に対して発信することにより情報発信能力を育成する。 	B	A		<p>本年度のPBL授業は、(有)みずほファーム、田畑商店、京丹波町商工会、大朴茶生産組合、道の駅さらびき、明治時代に京丹波町で製茶を輸出していた組合の子孫、宇治田原商工会、京都学園大学バイオ学科と協働学習に取り組み、ビジネスプラン発表会で発表した。発表会には、6名の社会人の来校を受けることができた。また、須高感謝祭・京都府あげぼの賞では、生徒のアイデア製品の販売を行った。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通して、社会とつながりのある生徒の育成を推進する。 	A			
	地元地域を元気にする取組により生徒を育む。また、自らの目標を実現するため、生きる生徒を育成する。更に、担任及び家庭との連絡を密にすることで、自らの責任を全うする姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路に応じた資格取得に挑戦し続ける姿勢を育む。 課題未定者は、担任と連絡を密にとることで、自ら課された課題に責任を持ち取り組む姿勢を育てる。 	A	A	A	<p>資格取得は、本年度も全学年真剣に取り組めた。資格は、就職の履歴書に記載する必須内容であるため、特に3年生の中には、夏季休業中にも検定補習を申し出てくるなど目標を持って上位検定に挑戦した生徒がいた。その効果もあり、1級の資格を取得した生徒は、5名であった。</p> <p>論文コンテストおよびビジネスプランコンテストにも挑戦し、日本政策金融公庫主催のビジネスプラン・グランプリでは、3年連続Best100選に選ばれるなど、日々の取り組みを大切に育てた。本年度は、課題解決への取り組みは十分できた。</p>
22 総合的な探究の時間(1年)	1年 『京丹波町への理解を深め、地域への愛着を醸成するとともに、地域の課題を発見し、地域の発展について考える力を育成する。』	<ul style="list-style-type: none"> 京丹波町の歴史、文化、自然、環境、産業、観光、スポーツ等について、町役場職員等を外部講師として迎え、理解を深める。 	A			
		<ul style="list-style-type: none"> 本校の前身である京都府農牧学校の歴史について、農牧学校資料館やウィードの森を活用しながら理解を深める。 	A			
		<ul style="list-style-type: none"> レポートやポスターの制作、グループワーク、新聞の活用等を通して、自身の考えを表現し、まとめていく力を育成する。 	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
23 総合的な学習の時間 (2・3年)	2年 『体験学習や調べ学習などとおして、地域・社会への理解を深め、職業や進路を主体的に考える態度を育成する』	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄研修旅行と関連づけて沖縄についての調べ学習や平和学習を行い、沖縄や戦争・平和に対する理解を深めさせる。 ・茶道体験をとおして、日本の伝統文化についての理解を深めさせる。 ・社会や職業に関心を持ち、自らの進路を主体的に考える態度を育成する。 ・京丹波町の企業などについて知り、地元に対する理解や関心を深めさせるとともに、地域のもつ安全面の課題に対する理解や関心を高めさせ、地域・社会の一員としてよりよく生きていく姿勢や態度を身に付けさせる。 ・必要な情報を収集し、整理して分かりやすく適切に伝える力を身に付けさせる。 	A			<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は2学期に研修旅行が実施され、例年よりも授業時数が少ない中ではあったが、調べ学習（レポート提出）沖縄の自然や文化及び平和について取り組み、理解を深めるさせることができた。特に、調査、資料作成、発表、体験、振り返りの一連の流れを実践できた。一方で、クラス間の取り組みの統一が図れず、担任団との密な連携ができなかったことが課題となった。 ・茶道体験をとおして、相手をおもいやる心を知り、伝統文化についての理解を深めさせることができた。 ・地元の企業や様々な職種の職業に関する学習をとおして、自らの進路を主体的に考える態度を育成する取り組みができた。進路希望調査などから、主体的に考える態度は十分でなく、今後も継続、改善する。 ・生徒主体でグループリーダーを中心として取り組ませたことにより、収集した情報を基に整理し、分かりやすく適切に伝える力を身に付けさせることができた。リーダーだけが課題を仕上げるという状況にならないよう、早い段階からクラス又はグループ全体が主体的に動く働きかけを一層模索する必要がある。
	3年 『自己の進路について考え、より良い生き方を探るとともに、他者に対して適切な言葉遣いで自己をアピールする力を育成する』	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習をとおして職業観・勤労観を育て、希望する進路の実現を目指す。 ・社会の様々な問題を学習し、人間としての在り方生き方を考えさせる。 ・様々な情報を整理したり、自分の意見をまとめ、適切な言葉遣いで表現する力を育成する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬面接のグループワークや「10年後の自分への手紙」などとおして自らの進路や卒業後の在り方生き方について考えさせ、自らのより良い生き方を探るためのきっかけをもたせることが出来た。 ・自らの進路に関わる調べ学習や新聞スクラップなどとおして、情報を整理したり、自分の意見をまとめたり、表現したりする力を育てることができた。

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none">・教育活動が目に見える形になってきた。・少人数指導をはじめ須知高校ならではの取組をもっとアピールして積極的に生徒募集をする。・教職員の丸となった生徒指導の在り方（生徒への注意の方法、問題行動など）を検討する。・ホームページを改善し、スマートフォンでも見やすい画面にする。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none">・スーパーアドバンスコースの進学指導の見直しと更なる強化策の検討（サタデースクール、3人指導体制など）・ホッケー部員の全国募集のための下宿を確保する。・ホッケー部員の募集と進学指導、指導・支援体制の強化（OB会組織づくりなど）・京丹波町食生活改善推進員と連携した食に関する取組は、双方にとって良い効果が出ており、今後も一層連携して充実させて欲しい。・コロナウイルス感染症拡大による企業業績の悪化により、来年度の求人が減少する可能性と思われるので、そのような予測も踏まえた就職指導の準備が必要である。

